

平成30年度大阪府立鳳高等学校学校運営協議会（第3回）

日 時 平成31年2月22日（金） 14:00 ～ 16:00

場 所 大阪府立鳳高等学校 校長室

出席者

委員：蒲生会長、神代副会長、福喜多委員、甲斐委員、山本委員

事務局：校長、教頭、事務長、首席

1 校長挨拶

2 第2回議事録確認

3 平成30年度学校経営計画及び学校評価について

（1）平成30年度学校評価について

- ・現時点で把握しているデータを掲載している。
- ・進路指導の取組については、生徒から高い評価を得ているが、取組についての自己評価は少し厳しく行った。大学入試改革への準備も進めつつある。
- ・社会を生き抜く力を育成するという項目では、台風被害により体育館が使えないなどのアクシデントがあったが、生徒は部活動や学校行事に積極的に取り組んでいた。
- ・授業力に関わる項目については、授業アンケート等も参考に自己評価を行った。
- ・ICTの活用は、年度末に調査があると思うが、昨年度とあまり変わってないと思われる。次年度の課題の一つである。
- ・広報活動については、Webページのコンテンツをさらに充実させる取組を進め、中学校の生徒や保護者への情報提供に努めたい。個別の説明会にも積極的に参加し、丁寧に学校についての説明を行っている。
- ・働き方改革に関しては、時間外勤務の縮減があまり進んでいない。部活動を頑張っしてほしい反面、部活動のガイドラインが示されたため、対応に苦慮しているところ。

（2）学校教育自己診断について

- ・校内委員会で、三者（生徒、保護者、教員）比較、経年変化、クロス集計による分析を行った。
- ・授業理解及び自己管理能力に関する項目は、生徒と教職員との差が大きい。
- ・自己管理能力については、設問を「時間」と「マナー」に分けてみてはどうかと考えている。
- ・学習時間について経年変化を見ると、時間は少しずつ増えてきているが、内容や質まで把握していくことが必要である。
- ・クロス集計によると、本校への入学動機の違いが、学校生活の楽しさや満足度に関わっている。また、本校の学校説明会に参加した生徒の方が、満足度が高い。これらのことから、改めて広報活動の大切さが明らかとなった。

4 平成31年度学校経営計画（案）

○「めざす学校像」「中期的目標」について

- ・前年度と大きな変化はないが、シンプルにすることを心掛けた。
- ・第2回で「こういう生徒を育てたいということを前面に打ち出した方がよいのではないか」というご意見をいただいたので、社会人基礎力をもとにして「前に踏み出す力」の育成、新学習指導要領を踏まえて「考え抜く力」の育成、社会でいろんな人と協働して社会を形成することができるための「自立した個人」育成の3点にまとめてみた。
- ・働き方改革に関わって、ICTを活用することによって、調整の時間の縮減やペーパーレスにするなど、業務や会議を効率的に行うことも実施したい。

5 意見交換等

(委員) 学校教育自己診断の実施方法について、もう少し細かく教えてほしい。

(事務局) 実施時期は例年11月中旬から下旬である。生徒はHRの時間にマークシート方式で実施している。保護者は生徒を通じてアンケート用紙等を配付し、回答は封筒に入れて生徒を通じて提出する。教員は職員会議で配付し回収BOXに提出する。

(委員) 個々の授業に対するアンケートは実施していないのか。

(事務局) 学校教育自己診断とは別に、すべての授業について全生徒に対してアンケートを実施している。

(委員) アルバイトにより学習時間に影響があると思われるが、一週間の時間の使い方など生活の時間の使い方は聞いていないのか。

(事務局) 一週間単位では調査していない。本校では、学校としてアルバイトは原則として禁止しており、部活動の加入率も高いため、アルバイト中心の生活になるということはほとんどないと考えている。また、塾通いをしている生徒が一定数存在することもアルバイトの時間がないことと関係していると思われる。

(委員) 友達関係やいじめなど、人間関係に関する項目はあるのか。

(事務局) いじめや教育相談に関する項目で調査している。

(委員) 時間外勤務について、一般では月45時間が基準だが、教員は月80時間なのか。

(事務局) これまでは100時間であったが、次年度以降80時間となる。始業時刻よりも早く出勤したり、終業時刻以降に部活動の指導を行った時間などもカウントされる。

(委員) 部活動などは、いわゆるサービス残業か。

(事務局) 学校長による時間外勤務命令とは異なる。制度上のグレーゾーンと言えるかもしれない。

(委員) SNSについて、学校で規制を掛けたり、授業で注意したりしているのか。

(事務局) 携帯電話やスマートフォンを学校に持ち込むこと自体を禁じているわけではないが、授業中には出さないなど、メリハリを付けて使用するよう指導している。また、SNSの使い方について、講師を招いて講習を行ったり、情報の授業でも情報モラルについての指導を行っている。

(委員) 非常勤講師に対する情報提供や講習のようなことは行っているのか。

(事務局) 確かにその必要はあると思うが、年間の授業時間数(予算)が決まっているため、授業以外での拘束は契約外となり、難しい面もある。

(委員) 非常勤講師の授業を見学してコメントを伝えたりしてはどうか。

(事務局) 非常勤講師に限らず、教員間で互いに授業を見学しあうということは必要だと思う。現状は、「いつでもどうぞ」というところには至っていない。

(委員) 非常勤講師を雇用する際は、審査委員会などがあるのか。他校の専任教員が非常勤講師をすることはできないのか。

(事務局) 非常勤講師は、各校で取り合いとなり、採用できる人を見つけること自体が大変な状況である。非常勤講師として何校かを兼務する場合はあるが、専任教員が非常勤講師をすることは(定時制など特別な場合を除けば)できない。

(委員) (鳳高校に対する中学生の)進路希望調査の結果が高いようだが、いつもこれくらい高いのか。実際の志願者はどうか。

(事務局) 例年、希望調査よりは減少し、最終の志願倍率は1.2~1.3倍程度になる。

(委員) 公立高校に行きたいというニーズは高いので、普通科は中学校の進路指導の中で少しずつ倍率が落ち着いていく。文理学科などは、併願で私立高校に合格してから受験する生徒が多いので、最終の倍率は下がりにくい。

(委員) 高校でのキャリア教育とはどのようなものか。職場体験のようなものか。

(事務局) 大学の説明会やオープンキャンパスに参加したり、さまざまな職業のプロを招いて話を聞いたりするような取組を行っており、それをきっかけに自主的に進路について調べたり考えたりできるようになってほしいと考えている。

- (委員) 学校経営計画は、ホームページ等で公表するのか。
- (事務局) 5月ごろ、府教育庁と本校のホームページに掲載する。
- (委員) 平成31年度の計画から広報という項目がなくなっているようだが。
- (事務局) 4番の項目の一つとして示している。
- (委員) 「多様な人々と協働できる」というのは、臨機応変とかあらゆるところに順応同化できるという感じがするが、「自立した個人」というと何事にも動じないしっかりとした自分を持つというようにとらえてしまう。矛盾しているように感じるのだが。
- (事務局) 自立していないと流されてしまう、協働していく上では確固たる自己が必要という意図である。
- (委員) 「自立した個人」というのが、どういう生徒を育てたいのか具体的には分かりにくく感じる。
- (事務局) 志をしっかりと持つということ。10代の頃に「芯」になるものが形作られていくと考えている。
- (委員) これからは、多様性ということも必要ではないか。コミュニケーション能力ともつながっていると思う。
- (事務局) それらの「両立」というイメージをもう少し表現できるように考えたい。
- (委員) 社会に貢献できるということを取り入れた趣旨は何か。
- (事務局) 卒業後にどこの大学に行くかということより、もっと広い意味で将来について考えられる人になってほしい、社会のどこかで活躍してほしいという趣旨である。
- (委員) 「第一志望をかなえる」ということが引き続き掲げられており、これが最も具体的である。一方で、第一志望は直前で変わることがあると思う。
- (事務局) 実際にはスローガンとして10年近く使われている。学校教育自己診断の分析にあったように、人に勧められるとか学力に合わせてということではなく、自分で納得して選ぶということが大切。第一志望が変わることはあってもよい。第一志望について考え、それをかなえようとするのを大切にしてほしいと考えている。
- (委員) 第一志望というのは、高い志を持ってそれを実現するという意味合いがあったのではないか。
- (委員) 第一志望をかなえられたかどうかは、卒業生にきいてみないとわからない。また、授業についてもどの授業がどういうふうにわかりやすかったのかなど、卒業生にアンケートをしてみたらどうか。生徒に「一生懸命聞いてみよう」、「面白い」と思わせただけは何か、それを共有したらいいのではないか。
- (委員) 授業アンケートの結果は、個々の先生方に返っているのか。それはどのように使っているのか。
- (事務局) 授業アンケートの結果は、個々の教員に返している。それをもとに各自で分析し、面談も行う。誰が回答したかがわからないように集計している。卒業生については、アンケートではないが、大学での学びについて後輩に話したりする機会や大学見学の際にその大学で学ぶ先輩から話を聞く機会などを増やしていけたらと考えている。
- (委員) キャリア教育の評価指標として転職率を調べることもある。同様に、高校から大学もキャリア教育がうまくいっていれば、大学での不満等が少ないと思われる。
- (委員) 単位制そのものが、自分にとって必要なカリキュラムを考え、自分の目標をめざすという点で、キャリア教育としての意味合いがあり、鳳高校の特徴だと思う。
- (委員) 大学名ではなく、こういう先生がいる、こんな研究がなされているということまで指導すると、大学での満足度が高まるのではないか。
- (事務局) これまでも多くの学部・学科の方に来ていただいて話を聞く機会を作ったりしているが、自分(生徒)からアクションを起こしてほしいと思うので、そのような意識や力を高めることが課題である。

(委員) 飛行機に興味のある生徒に飛行機が何で作られているか調べてみるように示唆したところ、本人がいろいろ調べてみた結果、カーボン繊維で作られていることを知った。その生徒は最終的に大学の繊維学科に進学した。工学部とか航空学科を勧めるのではなく、自分で調べるように示唆したところに大きな意味がある。(学習面でなく) そういう個々の生徒に寄り添った指導ができるということを出し出すことができたらよいのだが。

(事務局) 本校としてもめざしたいところである。単なる出口指導ではなく、その先の進路、人生について考えさせるということが必要だと思う。

(事務局) Web ページの更新について業者と打ち合わせを行う中で、スクールアイデンティティを明確にして教員や生徒が共有することが必要だという話があった。これをきっかけに考えていきたい。

(委員) Web ページにカリキュラムは掲載されているか。職業別の選択パターンなどを示したらわかりやすいのではないかと。

(事務局) 確かにWeb ページの教育課程表だけでは単位制のことがわかりにくい。学校説明会等では、別綴じの資料を用いながら進路別の科目選択について詳しい説明を行っている。本校ならではの学びのスタイル、生活のスタイルをWeb ページで示すことができるようにしたい。

(委員) 単位(科目)の取り方はどうなっているのか。入学の時にコースを選んでそれに合った選択するのか。

(事務局) 将来のことを考えたり、自分の興味・関心によって、自由に選択できる。実際にどのような選択をするかは、ガイダンスできめ細かく相談に応じている。考えるためのヒントとして選択のモデルは用意している。

(委員) (子どもは) 次年度の選択があるので、1年の終わりごろから進路について考え始めたように思う。自分で調べたり、先生に相談したりしながら、最終的には自分で決めた。自分で決めた限りはやるという意味で単位制は良かったと思う。部活動の時間が(休みの日も含めて)長いということは気になったが、本人は懸命に楽しそうにやっていた。

(委員) キャッチフレーズについて、命を育てる、雛を育み空へ飛び立たせるなどのフレーズが保護者への訴求力があるのではないかと。

(事務局) 本校の校歌の一節に「起て一千の鳳雛よ」という言葉があり、そのような願いが込められている。

(委員) 鳳高校の関係者以外にはわからないのではないかと。100周年も近いのでわかりやすいスローガンなどを考えてはどうか。

(委員) 学校選択は、それぞれの学校の特徴、各高校がどういうところに力を入れているのか、将来どういう進路に進みたいかということで行っている。入れる高校ではなく、卒業して将来どう生きていくのかということを考えさせている。

(委員) 単位制だから入学しているという生徒は増えたのか。

(事務局) 10%程度だと思われる。

(委員) 説明会に参加した生徒のうち、どのくらい入学しているか。

(事務局) 本校の説明会で1,000人以上参加している。外部の説明会も15回ほどあり、パンフレットは約1万部配布しているので、把握はできていない。

以上の意見交換の後、今年度学校評価及び次年度学校経営計画について、承認していただいた。

以上